厚生労働省 ひと、くらし、みらいのために Ministry of Health, Labour and Welfare

高等学校新学習指導要領対応

人生100年時代の社会保障を考える

「主体的・対話的で深い学び」実現のための高校生向け社会保障教育指導者用映像資料

モデル授業(公的医療保険①)を活用した授業例

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

本映像の目的と活用に当たっての留意事項

本映像資料は、高校生の社会保障に対する理解の促進を図るため、高等学校における社会保障教育の実践の参考として、高等学校の教職員向けに作成したものです。映像資料中の授業映像は、厚生労働省が開発したモデル授業を活用した公民科の授業を一例として撮影したものですので、実際にモデル授業をご活用いただく場合には、生徒の興味・関心等に応じて工夫いただくことが可能です。

なお、モデル授業や授業映像において、特定のライフコースや指導者の個人的な考えに基づく考え方の例等を示している箇所がありますが、これはあくまで具体的な議論を進めるための材料であり、この特定のライフコースや考え方のみを推奨するものではありません。授業でご活用いただく際も、特定のライフコースや指導者の考え方のみを推奨するものではない旨を分かりやすく補足するなど、生徒を取り巻く環境や将来に対する考え方等の多様性にご配慮をお願いします。

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

高等学校学習指導要領

学習指導要領　科目「公共」	学習指導要領解説　科目「公共」の内容とその取扱い
第１　公共 ２　内容 B　自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち （ｳ）　職業選択，雇用と労働問題，財政及び租税の役割，**少子高齢社会における社会保障の充実・安定化**，市場経済の機能と限界，金融の働き，経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること，市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解すること。	少子高齢社会における社会保障の充実・安定化については，**疾病や失業，加齢など様々な原因により発生する経済的な不安やリスクを取り除くなどして生活の安定を図り，人間としての生活を保障する社会保障制度の意義や役割を理解**できるようにするとともに，我が国の社会保障制度の現状と課題などを，**医療，介護，年金などの保険制度において見られる諸課題を通して理解**できるようにする。 なお，「『財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化』については関連させて取り扱い，国際比較の観点から，我が国の財政の現状や少子高齢社会など，現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて扱うこと」（内容の取扱い）が必要であり，**社会保障に関わる受益と負担の均衡や世代間の調和のとれた制度の在り方**について触れることが大切である。

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

授業の目標

この授業では大きく2つの目標を掲げています。

- 人生には様々なリスクが潜んでいること、社会保障がリスクに対して国民全体で支え合う制度であることを理解する。
- 各自が必要と考える社会保障制度について考察し、自らの意見を、論拠をもって表現する。

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

授業における問い

持続可能な社会保障の在り方はどうあるべきか。

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

1時間目
1.社会保障について考えてみよう

学習活動：ワーク1～2

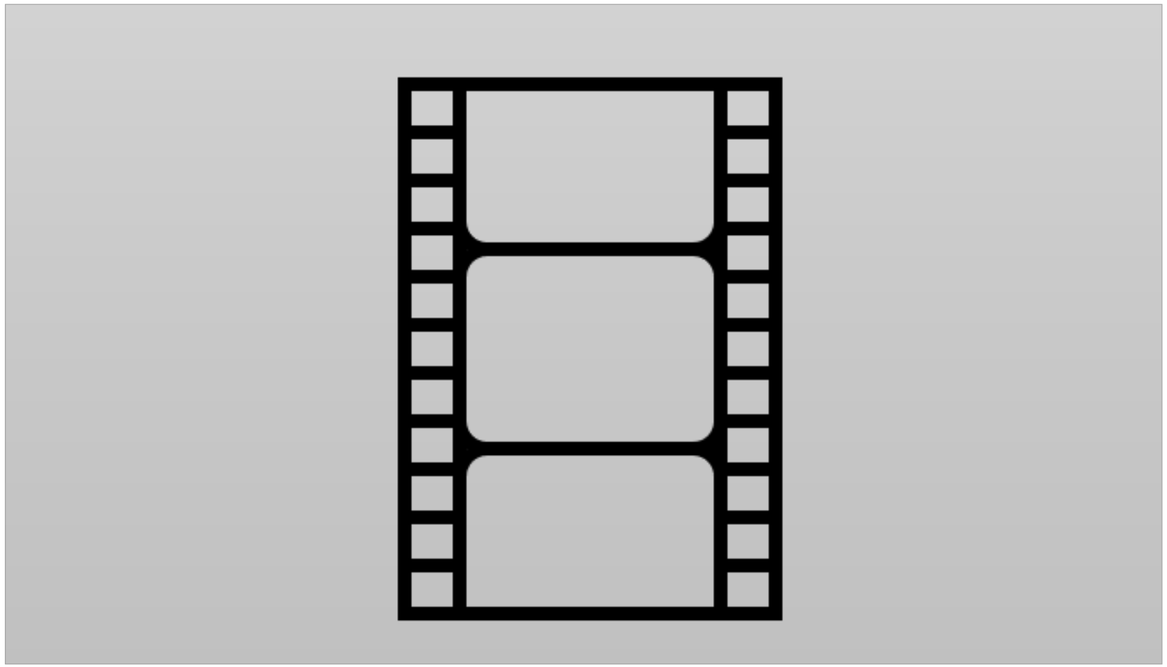
副教材：P3～9

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

1.社会保障について考えてみよう
(1)わたしたちの生活と社会保障制度

【ワーク1】

✓ これからの人生で起こるかもしれない困難な出来事にはどのようなものがあるか、書いてみよう。



【ワーク1に対するヒント】

- 卒業後の直近の人生だけではなく、高齢期も含めて考えられるよう、アドバイスする。

- このほか、困難な出来事として、主なもの（病気・ケガ、長生きによる収入減少、（自分が）介護（を必要とする状態になること）、失業、貧困）をあらかじめ提示し、自分にとってより困ると思う順番を付けさせるなどといった方法により、望んでいなくても誰もにこのような出来事が起こりうることを確認させてもよい。

- このとき、「長生きによる収入減少」については、長生きすること自体は望ましいことであっても、長生きすることによって必要となる生活費等を事前に予測することができず、経済的に困る可能性があることを補足する。

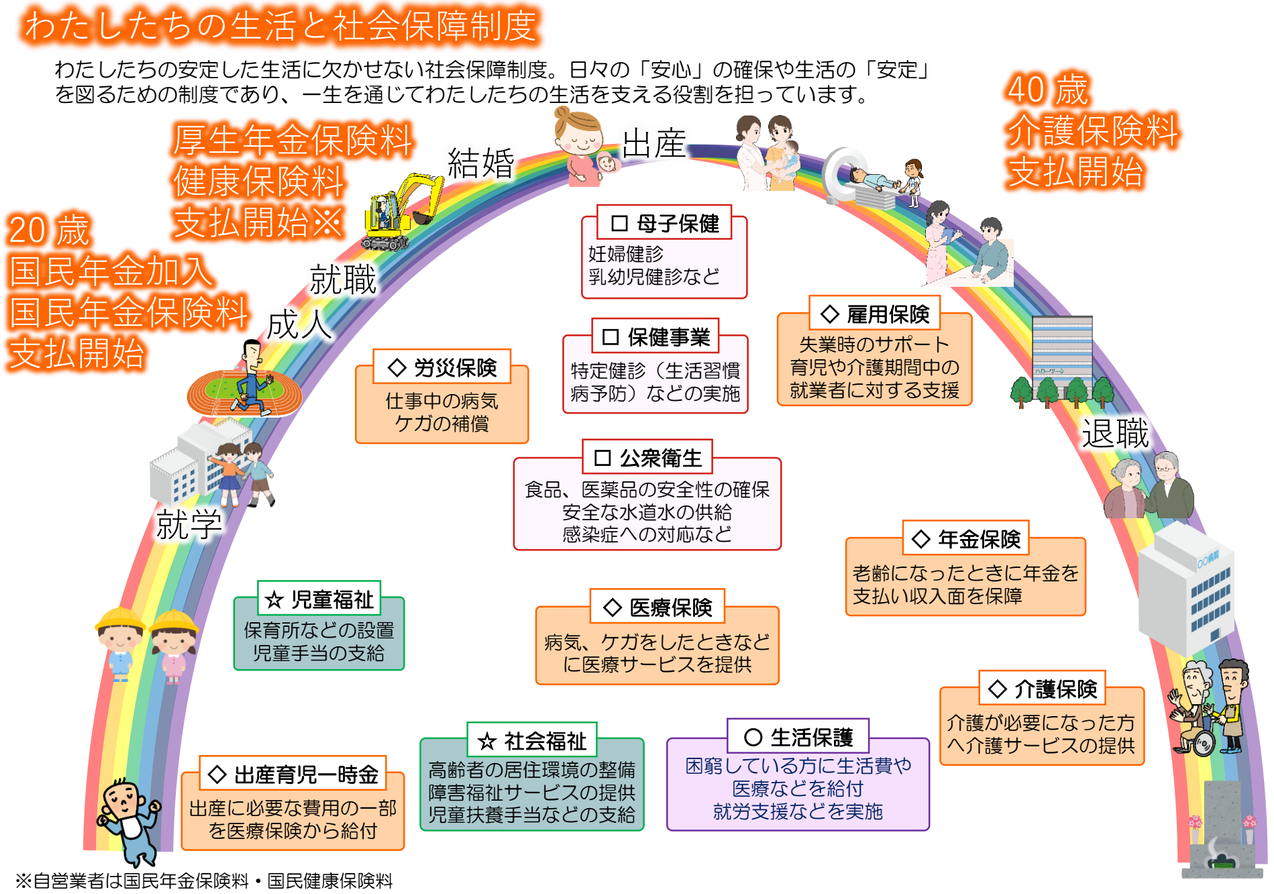
1.社会保障について考えてみよう
(1)わたしたちの生活と社会保障制度

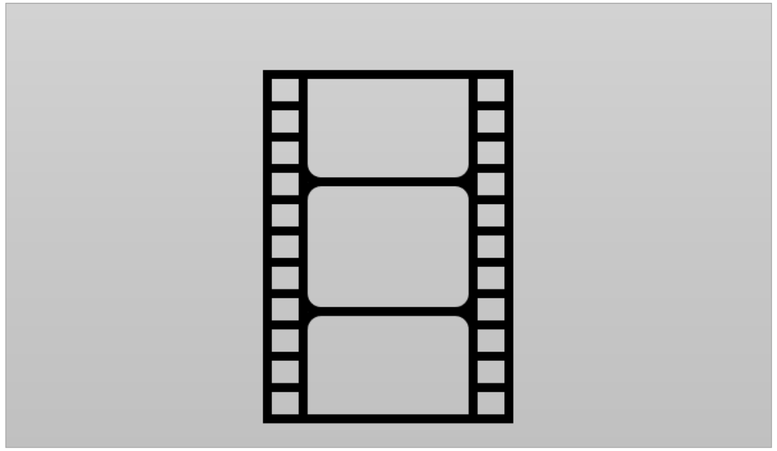
【ワーク2】

✓ 予期せぬ困難を支えるのが社会保障制度です。社会保障制度のうち、社会保険には医療・年金・介護保険などがあります。もし、社会保険がなかったら私たちの生活はどうなるか、考えてみよう。

【副教材　P3】

✓ 人生の中で起こりうる困難な出来事とそれに対応する社会保障制度の全体像を説明する。





【特に注目してほしいポイント】

- 私たちの安定した生活に欠かせない社会保障制度。日々の「安心」の確保や生活の「安定」を図るための制度であり、一生を通じて私たちの生活を支える役割を担っている。
- 日本の社会保障制度には、社会保険（◇医療・年金・介護等）に加え、社会福祉（☆児童手当、障害福祉サービス等）、公的扶助（○生活保護等）、公衆衛生（□感染症対策・保健事業等）がある。

1.社会保障について考えてみよう
(1)わたしたちの生活と社会保障制度

【ワーク2】

✓ 予期せぬ困難を支えるのが社会保障制度です。社会保障制度のうち、社会保険には医療・年金・介護保険などがあります。もし、社会保険がなかったら私たちの生活はどうなるか、考えてみよう。

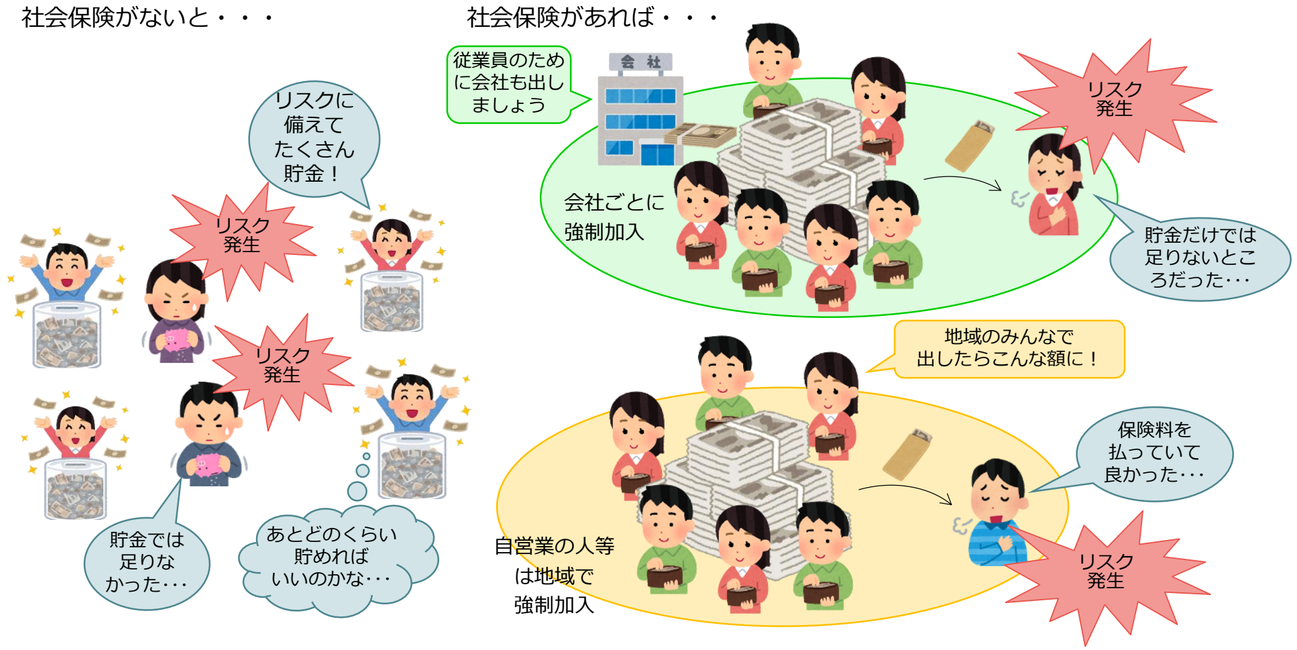
【副教材 P4～5】

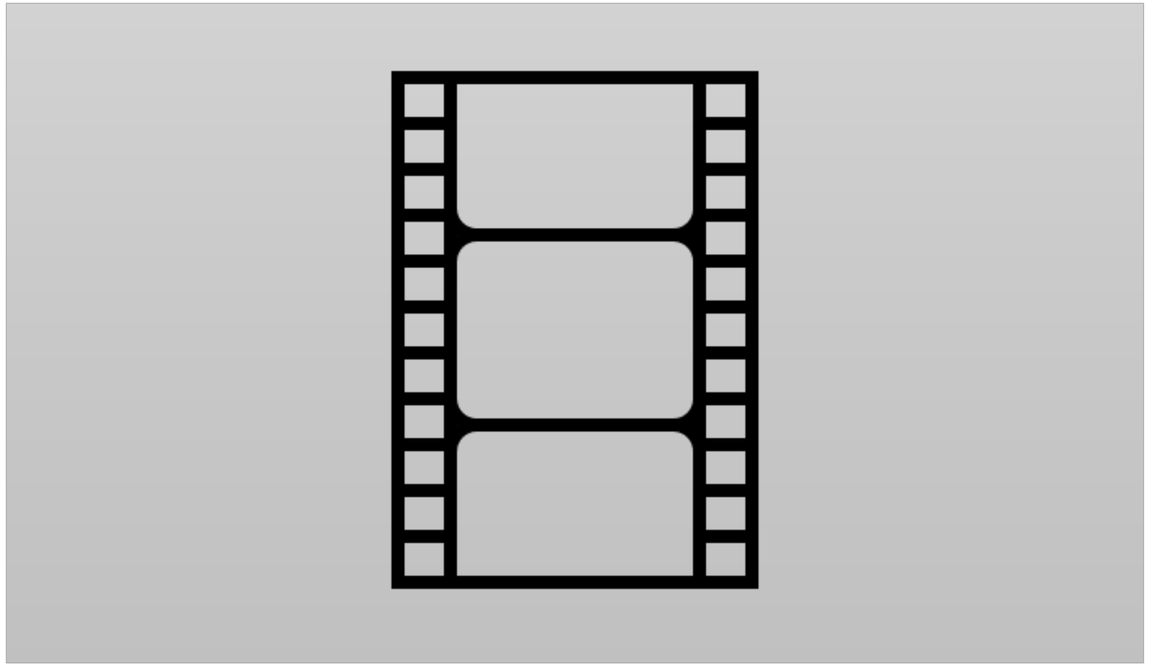
✓ 社会保険の仕組みと意義を説明する。

社会保険とは？

「保険」とは、誰もが人生のなかで遭遇する可能性のある様々なリスク（病気・ケガ・退職や失業、長生きによる収入減少など。）に備えて、人々が集まって集団（**保険集団**）をつくり、あらかじめお金（**保険料**）を出し合って、リスクに遭遇した人に必要なお金やサービスを支給する仕組み。

⇒社会全体でこのような「保険」の仕組みを作るのが「**社会保険**」





【ワーク2に対するヒント】

- 例えば、医療保険がなかったら、年金保険がなかったら、私たちの生活はどうなるだろう。

1.社会保障について考えてみよう
(1)わたしたちの生活と社会保障制度

【説明のポイント】

✓ 日本の社会保険制度を確認する。

日本の社会保険制度

・「医療保険」は、病気やケガなどで通院や入院をした、出産したときなどに給付され、国民全員が加入しています（国民皆保険）。

・「年金保険」は、収入減少というリスクに対して収入面で保障する制度で、長生きをした（老齢年金）、障害を負った（障害年金）、お父さんやお母さんなど家計を支えていた方が亡くなった（遺族年金）ときなどに受給できます（国民皆保険）。

・「介護保険」は、高齢者の介護サービスを提供しています。

これらの社会保険制度は、

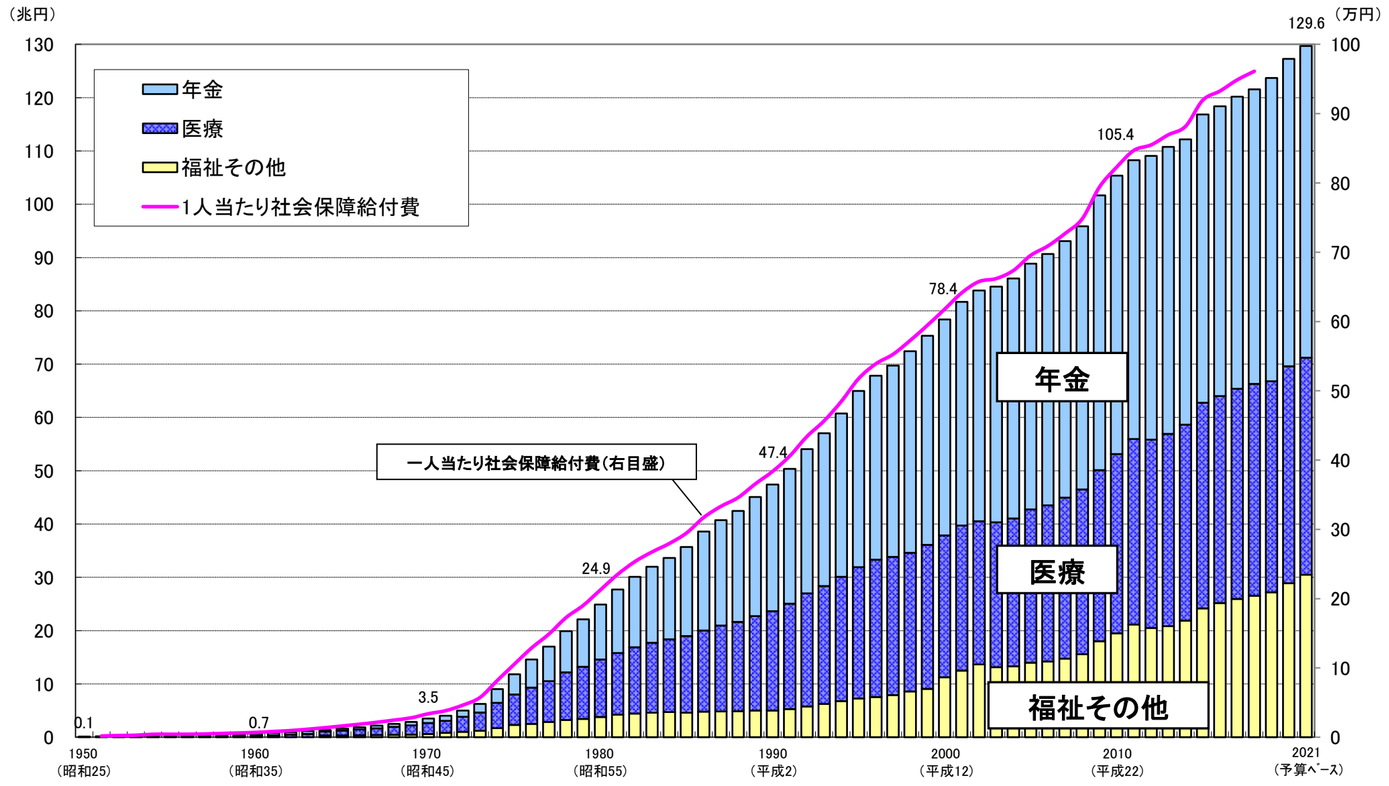
皆さんが支払う**保険料（収入に応じて負担）**と**税金**で運営され、社会全体で支え合う仕組みになっています。

1.社会保障について考えてみよう
(2)社会保障を支える財政

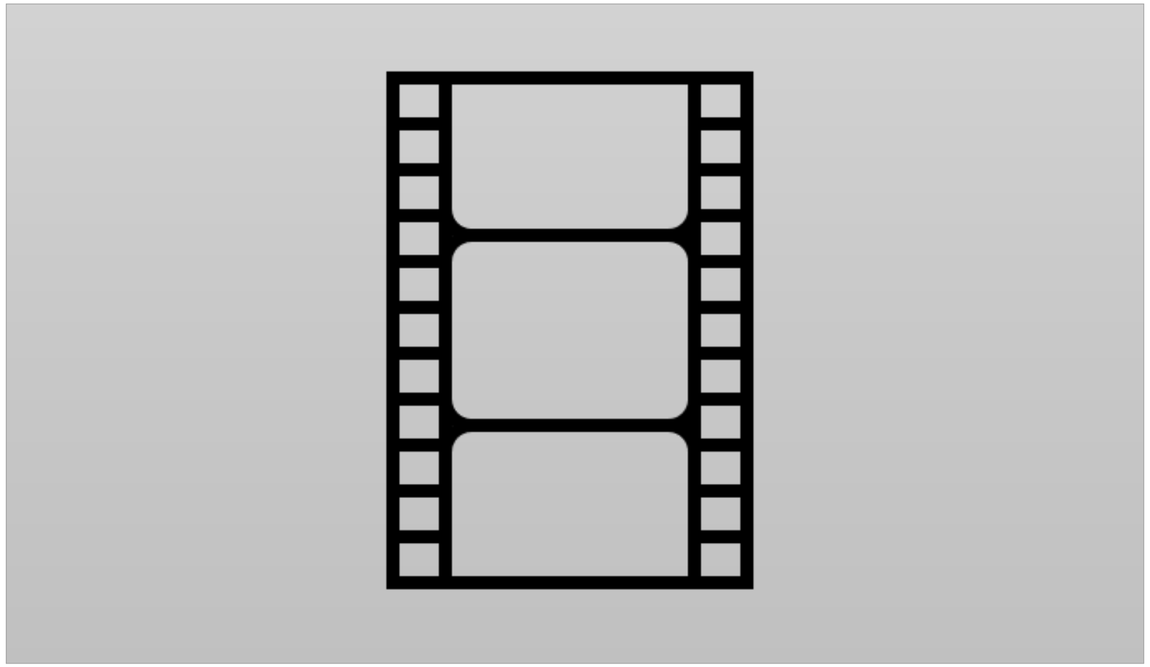
【副教材　P6】

✓ 国民一人当たりの社会保障制度利用にかかる費用は年々増え続けていることを説明する。

社会保障給付費の推移



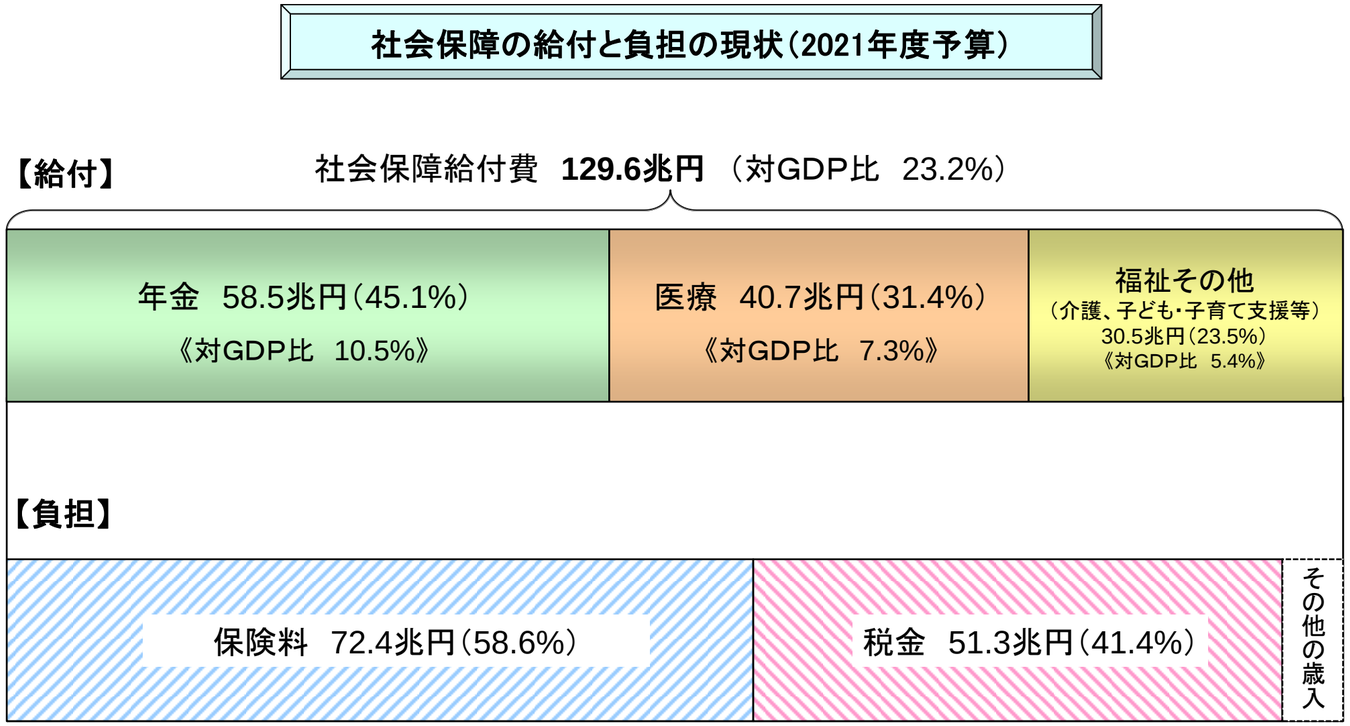
資料：国立社会保障・人口問題研究所「平成30年度社会保障費用統計」、2019～2021年度（予算ベース）は厚生労働省推計、
2021年度の国民所得額は「令和3年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度（令和3年1月18日閣議決定）」
（注）図中の数値は、1950,1960,1970,1980,1990,2000及び2010並びに2021年度（予算ベース）の社会保障給付費（兆円）である。

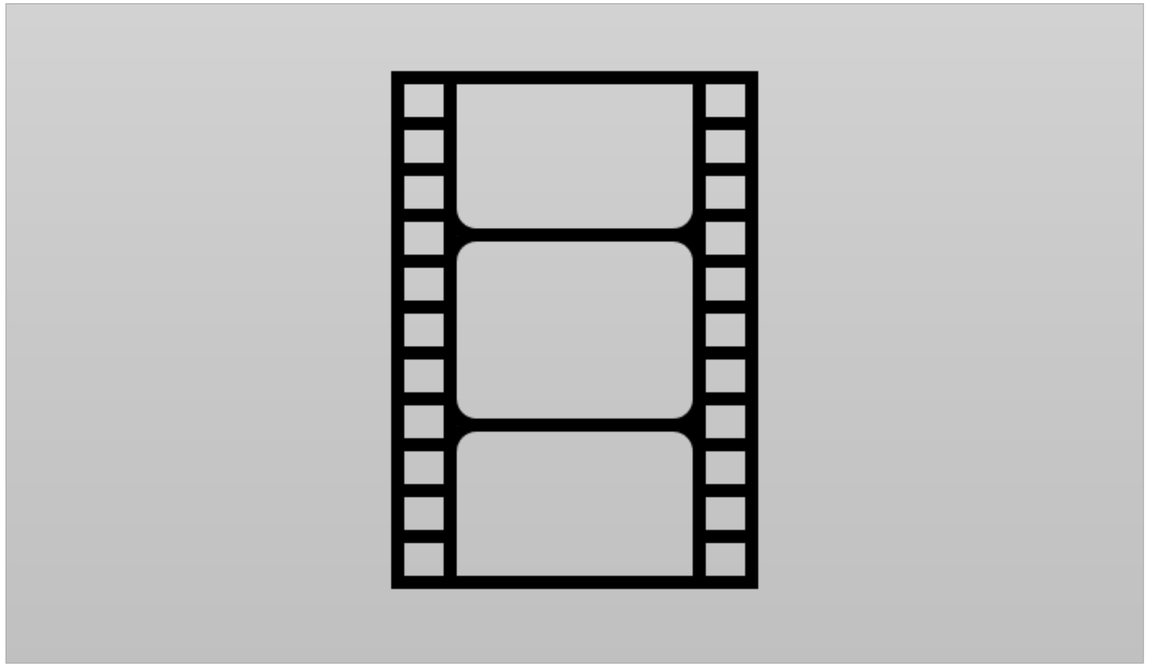


1.社会保障について考えてみよう
(2)社会保障を支える財政

【副教材　P7】

✓ 社会保障給付費の約6割は保険料で賄われているが、税金も使われている。





【問いかけ】

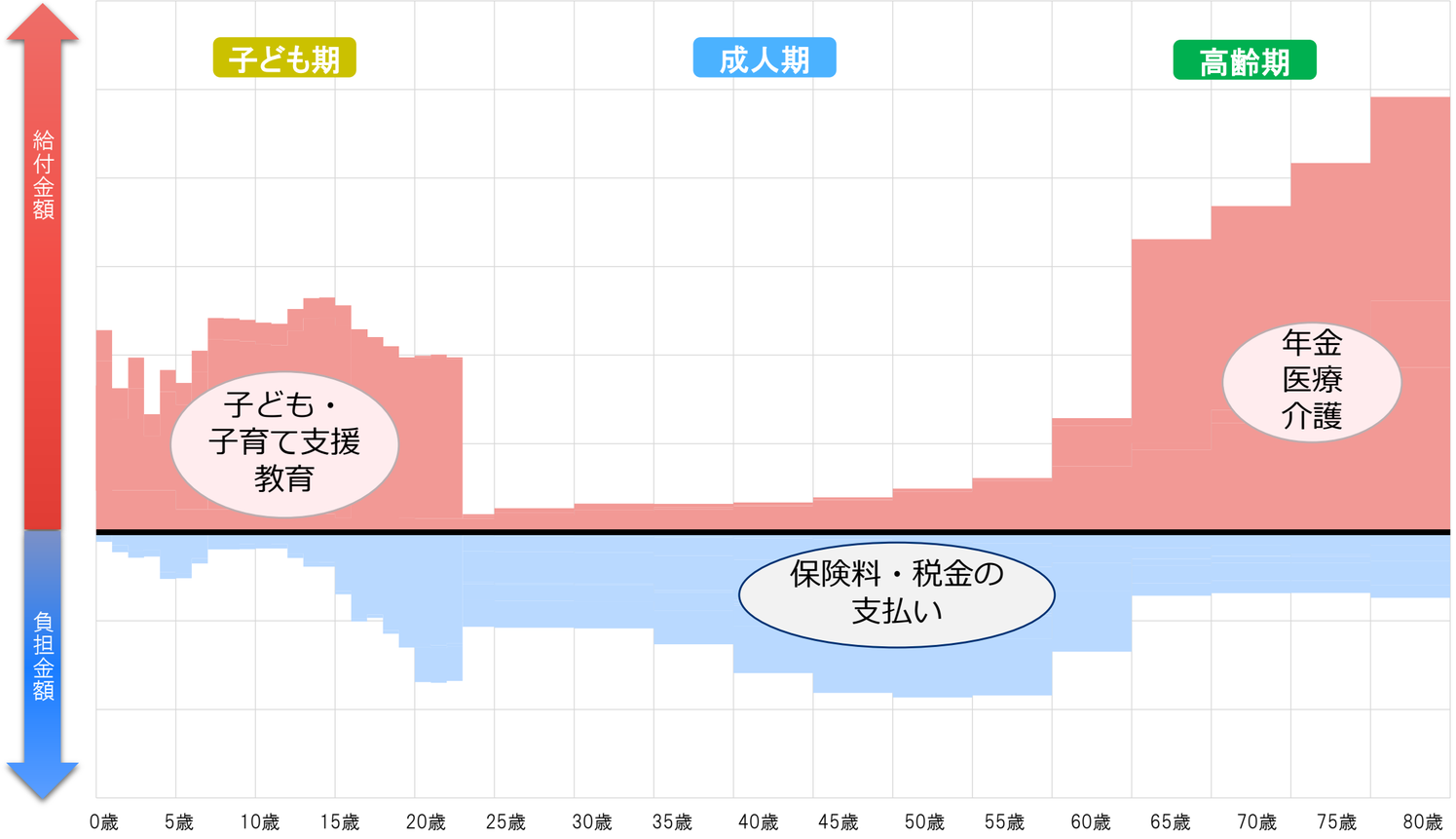
- 買い物をした時に払う消費税も社会保障給付費の一部として使われていることに気付いてもらう。

1.社会保障について考えてみよう
(2)社会保障を支える財政

【副教材　P8】

✓ 一生の中で主に給付を受ける時期と、逆に主に負担する時期がある。

ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ



- 現在、給付は高齢期中心、負担は成人期中心というこれまでの社会保障の構造を見直し、切れ目なく全ての世代を対象とするとともに、全ての世代が能力に応じて負担し、公平に支え合う「全世代型社会保障」への改革が行われていることを補足してもよい。

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

1時間目
2.公的医療保険について考えてみよう

ワーク3～6

副教材：P11～13

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

2.公的医療保険について考えてみよう
(1)公的医療保険の仕組み

【ワーク3】

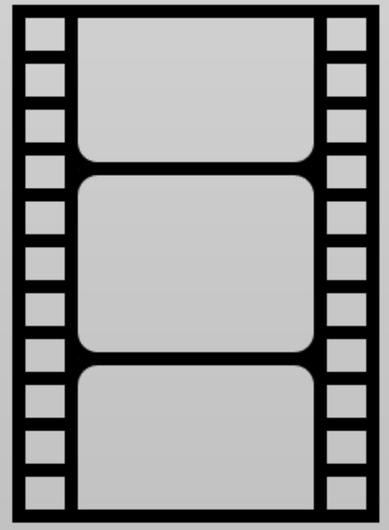
✓ 窓口で保険証を提示した場合、あなたが支払う金額はいくらになるか、計算してみよう。

【ケース1】

✓ 突然高熱が出たあなた。近くの病院の内科でインフルエンザB型と診断され、薬も含めて治療代は全部で1万円になりました。

【ケース2】

✓ マラソン中に転倒し大腿骨骨折の大ケガ。手術をして1か月入院。治療代は全部で150万円になりました。



- 自己負担割合と高額療養費制度について説明する。
- 保険証を示すことで、国民誰もが原則3割の自己負担で医療を受けられること、保険料をプールしている仕組みなどを理解させる。

【補足】

- 高額療養費制度とは、1か月に医療機関の窓口で支払う医療費の自己負担額が一定以上になる場合に、自己負担限度額を上限とし、残りを保険で支払う制度である。授業例で扱われている大腿骨骨折の例で言えば、3割負担のままなら45万円の自己負担となるところ、一般的な所得であれば８万円程度の負担で済むようになる。

2.公的医療保険について考えてみよう
(2)医療機関を受診したときの医療費

【ワーク4】

✓ 医療機関でもらう領収証や診療明細書から分かることを探ってみよう。

①

✓ 副教材P11～12を見て、医療機関にかかって窓口でお金を払ったときに受け取る領収証や診療明細書から何が分かるか、確認してみよう。

②

✓ 副教材P11～12に載っている領収証や診療明細書から実際の医療費がいくらかかっているか、確認してみよう。

① 副教材P11～12を見て、医療機関にかかって窓口でお金を払った時に受け取る領収証や診療明細書から何が分かるか、確認してみよう。

（回答例）

- 診療内容と費用。

② 副教材P11～12に載っている領収証や診療明細書から実際の医療費がいくらかかっているか、確認してみよう。

（回答例）

- 実際の医療費は２万1890円。領収証や診療明細書では、１点10円になっている。

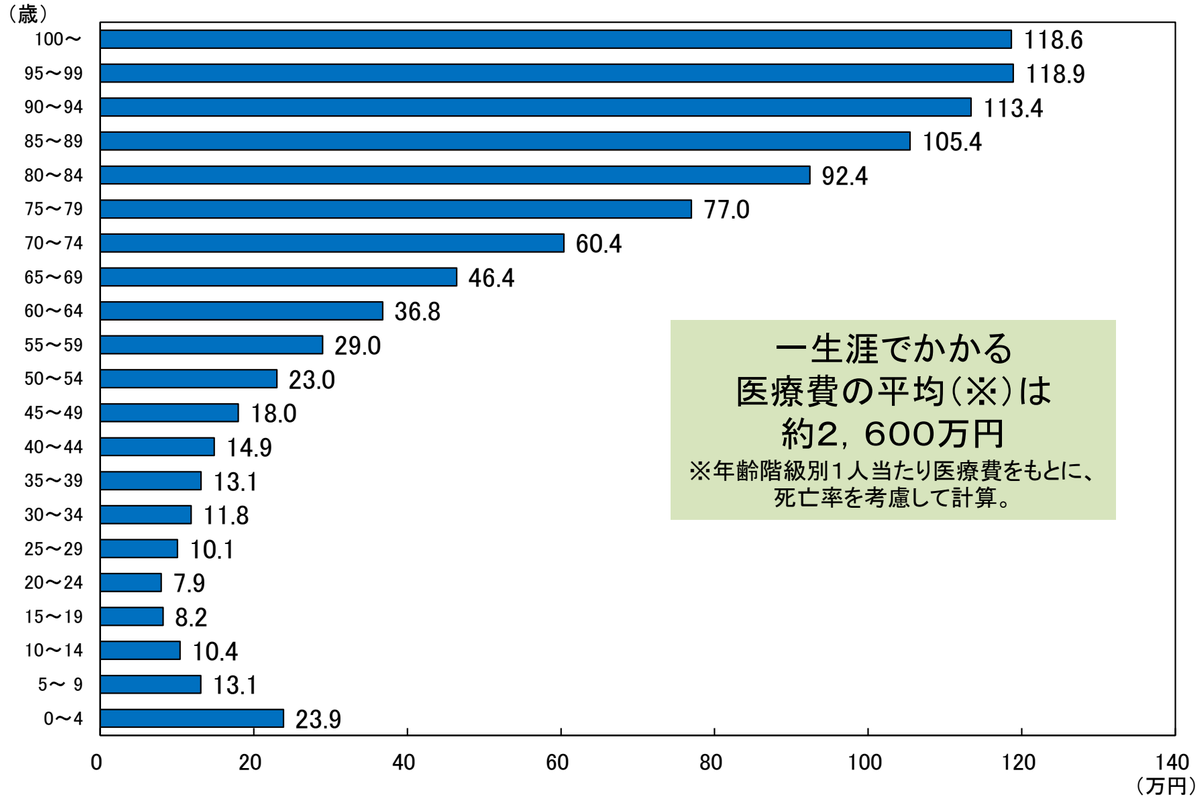
- 副教材P11～12の領収証・診療明細書を示し、どのような情報が読み取れるか発表させる。
- 副教材P11～12の領収証・診療明細書を示し、実際にかかっている医療費がいくらか、発表させる。個別の診療項目が点数表記になっていることに気付かせ、点数と医療費の関係（１点＝10円）を説明する。

2.公的医療保険について考えてみよう
(3)国民皆保険制度の必要性

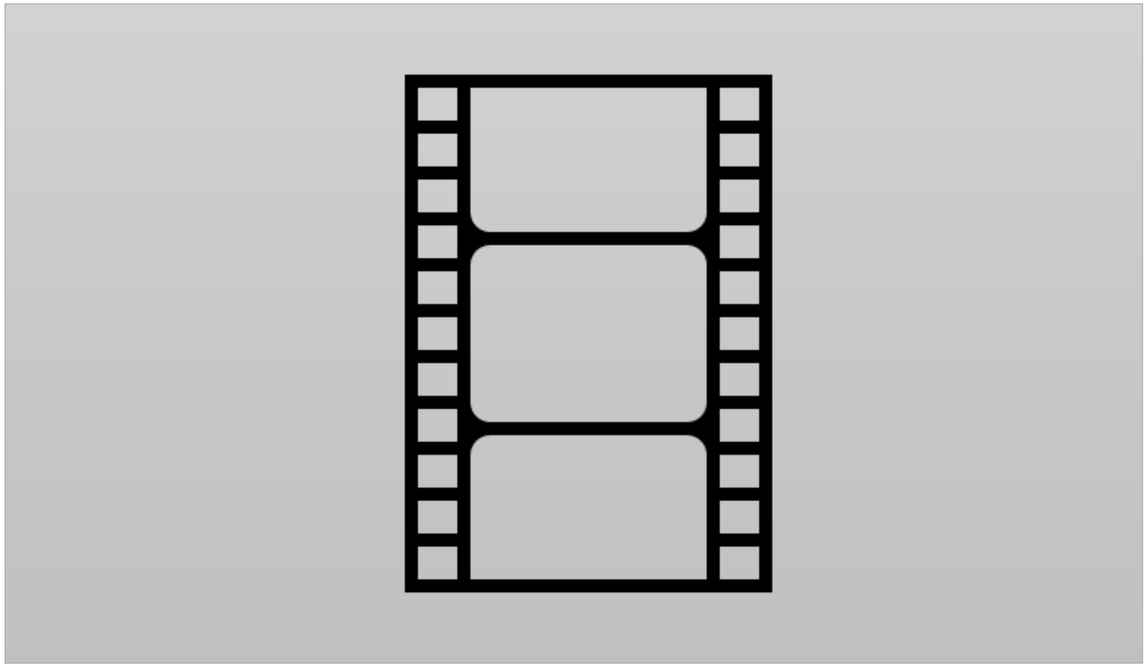
【ワーク5】、【副教材P13 】

✓ 副教材P13の年齢階級別１人当たり医療費のグラフから読み取れることを答えよう。

年齢階級別１人当たり医療費（平成30年度）



（注） 厚生労働省保険局「医療給付実態調査報告」等より作成。



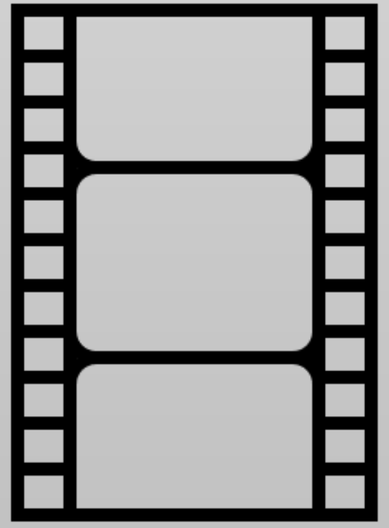
【ワーク5に対するヒント】

- 副教材P8も参照しつつ、子ども期、成人期、高齢期に分けて、それぞれ他の時期に比べて１人当たり医療費がどのような傾向にあるか考えさせてもよい。
- 現役世代でも働けない人はどうするのかという指摘に対しては、そうした働けない人についても社会保障の仕組み（保険料の減免、生活保護等）で対応していることを説明する。

2.公的医療保険について考えてみよう
(3)国民皆保険制度の必要性

【ワーク6】

✓ 国民皆保険制度は必要か、それはなぜか、考えてみよう。



- 国民皆保険制度のメリットとデメリットを意識するよう促しつつ、グループで議論させ、発表させる。
- 国民皆保険制度でなければ、保険料を負担しないという選択肢もあり得る。その場合に、各年齢階級における医療費を個人で負担できるかを考えさせる。
- 高齢になるにつれ、医療費は増大していく傾向にあること、一方で若いうちも医療費はかかっていることに注意させる。

【ワーク6に対するヒント】

- 医療保険制度は国によって大きな違いがあることを説明してもよい。例えばアメリカでは、公的医療保険は高齢者や障害者、低所得者だけを対象としており、民間保険の利用が一般的である。このため、医療保険に入っていないことによって巨額の医療費を請求されたり、加入している保険の種類によって受診できる病院に制限があったりする人がいる。

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

2時間目
2.公的医療保険について考えてみよう

学習活動：ワーク7～9

副教材対応ページ：P15

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

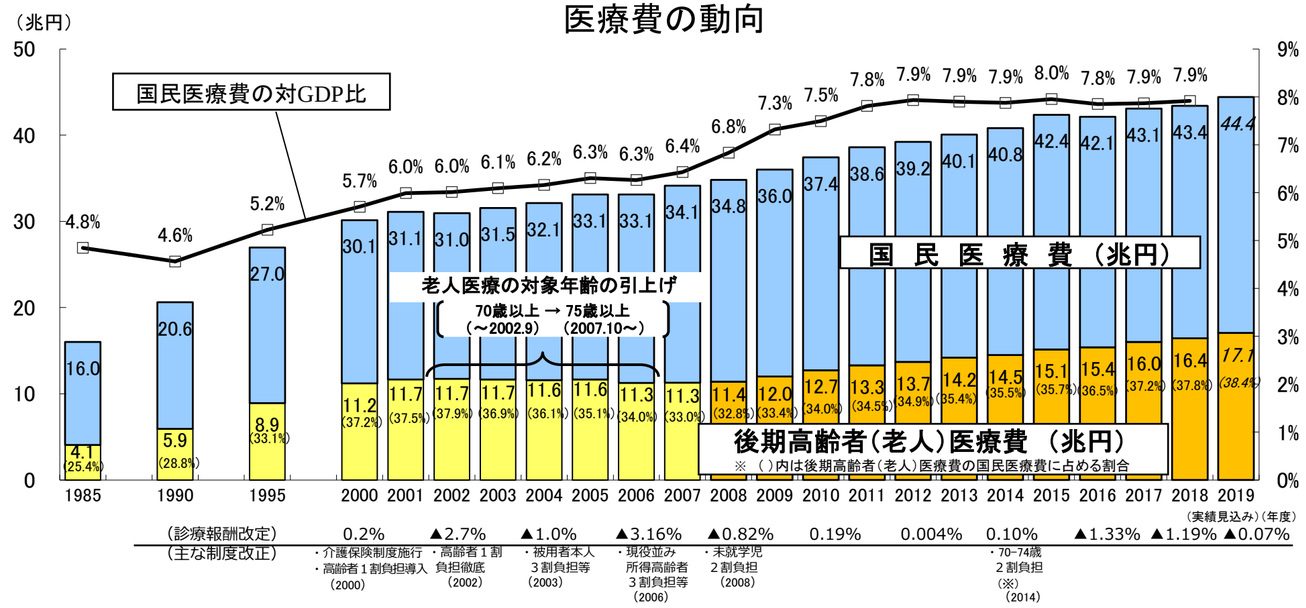
2.公的医療保険について考えてみよう
(4)日本の公的医療保険の課題

【ワーク7】

✓ 副教材P15「医療費の動向」から分かることとその原因を、考えてみよう。

【副教材　P15】

✓ １時間目の(3)国民皆保険制度の必要性で取り上げたように、高齢になるにつれ、一人当たりの医療費が増大する傾向にあることを取り上げ考察させる。少子高齢化の進行により、日本全体の医療費も年々増加している。

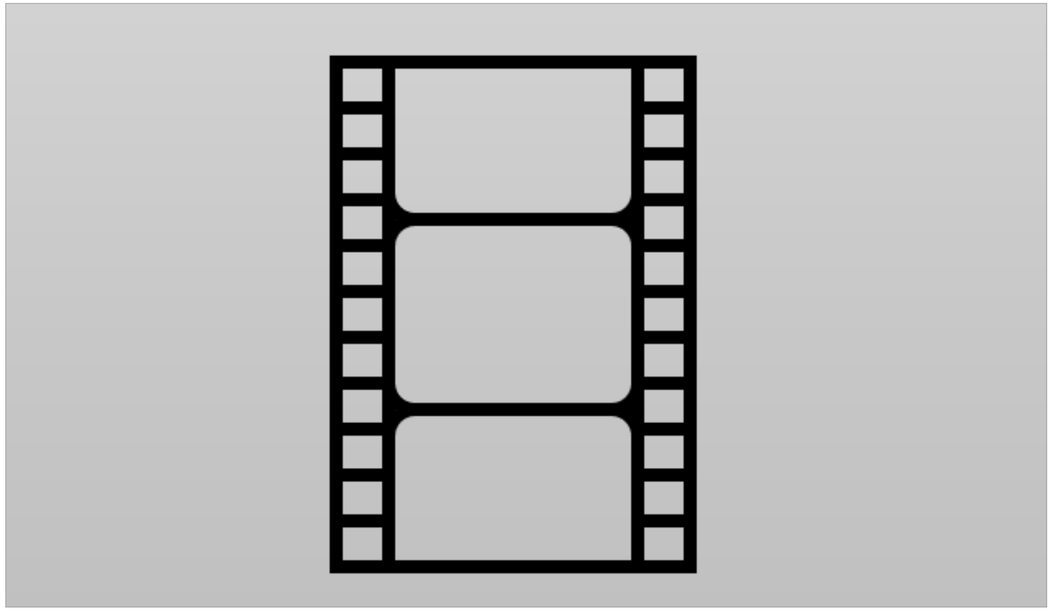


＜対前年度伸び率＞

（%）

	1985	1990	1995	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
	(S60)	(H2)	(H7)	(H12)	(H13)	(H14)	(H15)	(H16)	(H17)	(H18)	(H19)	(H20)	(H21)	(H22)	(H23)	(H24)	(H25)	(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	(R1)
国民医療費	6.1	4.5	4.5	▲1.8	3.2	▲0.5	1.9	1.8	3.2	▲0.0	3.0	2.0	3.4	3.9	3.1	1.6	2.2	1.9	3.8	▲0.5	2.2	0.8	*2.4*
後期高齢者（老人）医療費	12.7	6.6	9.3	▲5.1	4.1	0.6	▲0.7	▲0.7	0.6	▲3.3	0.1	1.2	5.2	5.9	4.5	3.0	3.6	2.1	4.4	1.6	4.2	2.5	*3.9*
GDP	7.2	8.6	2.7	1.2	▲1.8	▲0.8	0.6	0.7	0.8	0.6	0.4	▲4.0	▲3.4	1.5	▲1.1	0.1	2.6	2.2	2.8	0.8	2.0	0.1	－

注1　GDPは内閣府発表の国民経済計算による。
注2　2019年度の国民医療費（及び後期高齢者医療費。以下同じ。）は実績見込みである。2019年度分は、2018年度の国民医療費に2019年度の概算医療費の伸び率（上表の斜字体）を乗じることによって推計している。
（※）70-74歳の者の一部負担金割合の予算凍結措置解除（1割→2割）。2014年4月以降新たに70歳に達した者から2割とし、同年3月までに70歳に達した者は1割に据え置く。



【ワーク7に対するヒント（読み取れること）】

- 縦軸及び横軸の単位と数値の対象となる主語は何か。
- 具体的な数値を見て考える。

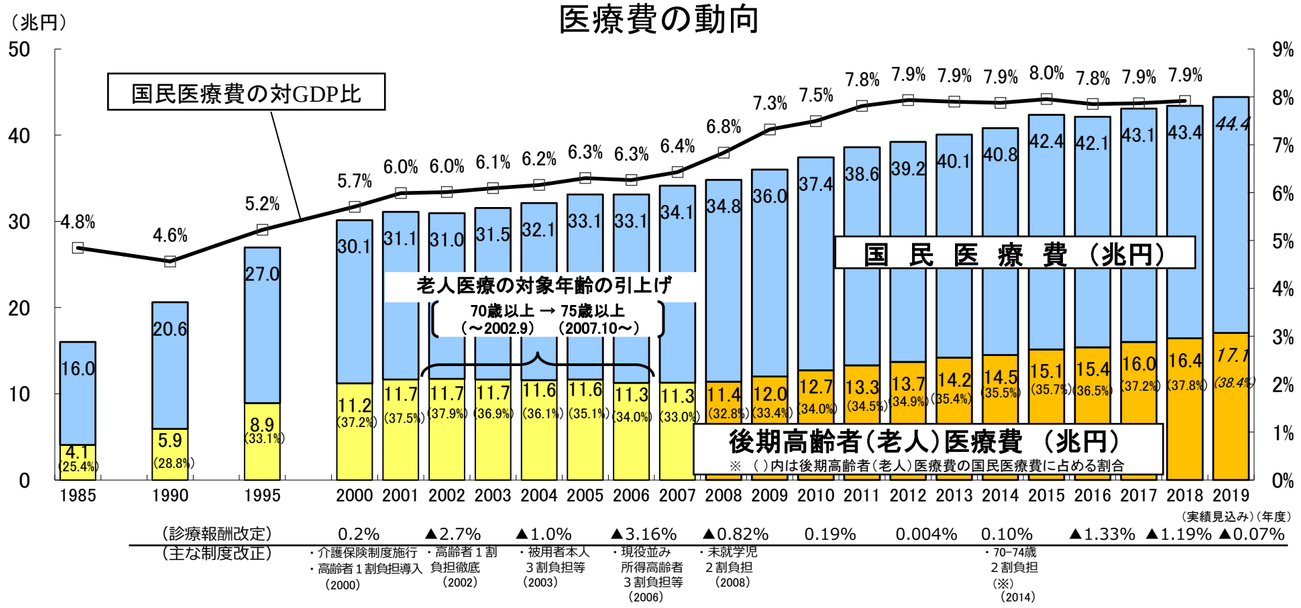
2.公的医療保険について考えてみよう
(4)日本の公的医療保険の課題

【ワーク7】

✓ 副教材P15「医療費の動向」から分かることとその原因を、考えてみよう。

【副教材　P15】

✓ １時間目の(3)国民皆保険制度の必要性で取り上げたように、高齢になるにつれ、一人当たりの医療費が増大する傾向にあることを取り上げ考察させる。少子高齢化の進行により、日本全体の医療費も年々増加している。

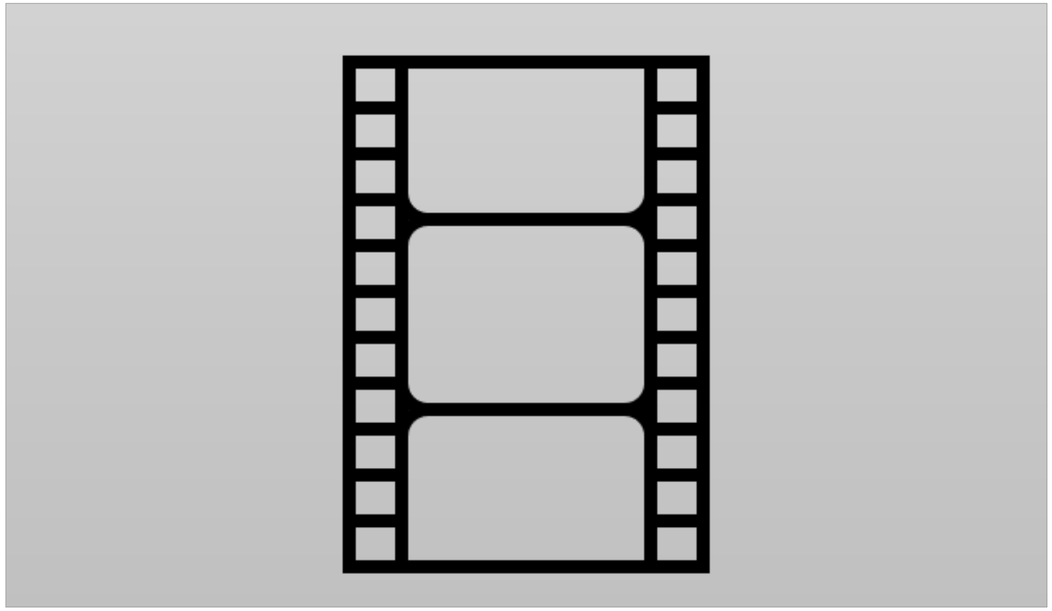


＜対前年度伸び率＞

（%）

	1985	1990	1995	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
	(S60)	(H2)	(H7)	(H12)	(H13)	(H14)	(H15)	(H16)	(H17)	(H18)	(H19)	(H20)	(H21)	(H22)	(H23)	(H24)	(H25)	(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	(R1)
国民医療費	6.1	4.5	4.5	▲1.8	3.2	▲0.5	1.9	1.8	3.2	▲0.0	3.0	2.0	3.4	3.9	3.1	1.6	2.2	1.9	3.8	▲0.5	2.2	0.8	*2.4*
後期高齢者（老人）医療費	12.7	6.6	9.3	▲5.1	4.1	0.6	▲0.7	▲0.7	0.6	▲3.3	0.1	1.2	5.2	5.9	4.5	3.0	3.6	2.1	4.4	1.6	4.2	2.5	*3.9*
GDP	7.2	8.6	2.7	1.2	▲1.8	▲0.8	0.6	0.7	0.8	0.6	0.4	▲4.0	▲3.4	1.5	▲1.1	0.1	2.6	2.2	2.8	0.8	2.0	0.1	－

注1　GDPは内閣府発表の国民経済計算による。
注2　2019年度の国民医療費（及び後期高齢者医療費。以下同じ。）は実績見込みである。2019年度分は、2018年度の国民医療費に2019年度の概算医療費の伸び率（上表の斜字体）を乗じることによって推計している。
（※）70-74歳の者の一部負担金割合の予算凍結措置解除（1割→2割）。2014年4月以降新たに70歳に達した者から2割とし、同年3月までに70歳に達した者は1割に据え置く。



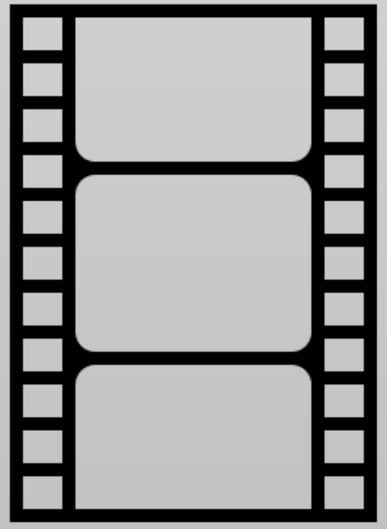
【ワーク7に対する生徒からの意見例（原因）　】

- 高齢者が増加している。
- 年齢が上がるほど医療費が増えている。

2.公的医療保険について考えてみよう
(5)日本の公的医療保険の課題に対して私たちができること

【ワーク8】

✓ 私たちができる医療資源（病院、医師、薬等）の効率的な使い方について、考えてみよう。
〇限りある医療資源を効率的に使うため、個人として何ができるか、考えてみよう。
〇グループに分かれて、考えたことを発表しよう。発表を通じて感じたことや分かったことについて、メモしよう。



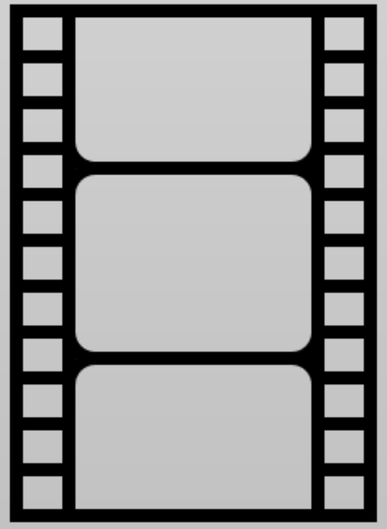
- 財源には限りがある一方で、医療費が年々増大していることから、公的医療保険の持続可能性には課題があることを理解させ、まずは個人の取組としてできることはないか問いかける。個人で考えをまとめる時間を取った後、グループで議論させる。

【ワーク8に対する生徒からの意見（例）】
- 健康診断を定期的に受けて、病気が重くなってから急に病院に行かないようにする。
- 規則正しい生活をして、病気を予防する。

2.公的医療保険について考えてみよう
(6)公的医療保険を維持するために社会としてできること

【ワーク9】

✓ 公的医療保険を維持するために政府や地方自治体としてできることを、考えてみよう。
〇公的医療保険を維持するために、個人の努力だけではなく、政府や地方自治体としては何ができるか、考えてみよう。



- 個人での取組には限界があることに気付かせつつ、社会全体でできることはないか問いかけ、個人で考えをまとめる時間を取った後、グループで議論させる。議論の結果を発表させる。
- １時間目の導入「(2)社会保障を支える財政」で考えたことも思いださせつつ、負担の在り方も含め、様々な意見が出るよう工夫・支援する。出てきた意見について議論し、国民全体での議論の必要性を伝える。

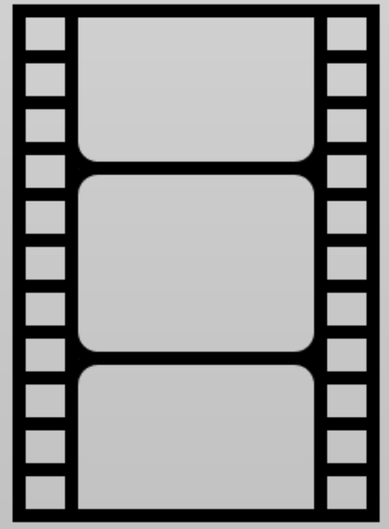
【ワーク9に対するヒント】
- 報道等で話題となっている公的医療保険の見直しについて紹介してもよい。

【ワーク9に対する生徒からの意見（例）】
- 医療費が増加していることを国民に分かりやすく伝える。
- 国や自治体から、健康診断を受けるよう促す。

2.公的医療保険について考えてみよう
(6)公的医療保険を維持するために社会としてできること

【ワーク9】

✓ 公的医療保険を維持するために政府や地方自治体としてできることを、考えてみよう。
〇グループに分かれて、考えたことを発表しよう。発表を通じて感じたことや分かったことについて、メモしよう。



【ワーク9に対する生徒からの意見（例）】

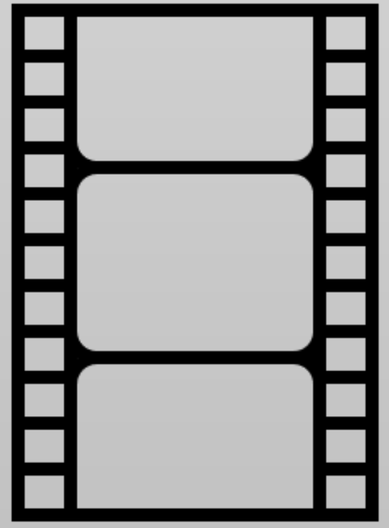
- 医療費の増加が危機であることを実感し、健康診断や健康づくりなど、自分にできることはできるだけ行うことが大事。
- 医療費増加に対する目標を作り、限界を設けることで減少が目指せる。
- 健康診断を行うことで、大病になる前に発見し、医療費を減らすことができる。
- 最初から大きい病院に行かず、かかりつけ医で定期的に診察を受ける。
- 医療費について知らない人が多いのは問題だと思うので、テレビや新聞などのメディアを活用する。

まとめ

【この単元の振り返り】

✓ ワークシートにこの単元で学んだことを記入する。

- これまでの学習を踏まえ、公的医療保険の課題を理解し、当事者意識をもって考えていく必要があることを伝える。



Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

おわりに

2021年4月1日

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

編集協力

【編集協力者　一覧】（敬称略）

神奈川大学特任准教授 （元神奈川県立海老名高等学校教諭）	梶ヶ谷　穣
神奈川県立三浦初声高等学校総括教諭	金子　幹夫
神奈川県立瀬谷西高等学校教諭	黒崎　洋介
千葉県立津田沼高等学校教諭	杉田　孝之
東京都立戸山高等学校主幹教諭	髙橋　朝子
東京都立農業高等学校主任教諭	塙　枝里子

【授業実施者】

千葉県立津田沼高等学校教諭	杉田　孝之

授業実施者からのコメント

高校生に社会保障の在り方やこの持続可能性を考えさせるには困難がともなう。本モデル授業は、高校生や現役世代が将来向き合う病気やケガなどのリスクに対し、公的医療保険の意義や課題等にフォーカスしている。２時間の授業で講義やグループワークとを分けながら、データや保険料の負担割合、イラスト等を活用し、公的医療保険の全体像を探究させ、「自分ごと」にする的確な教材である。各学校の生徒の実態や授業者の専門性をふまえて実践し、生徒一人ひとりの医療制度に対する見方・考え方、問いを育んでほしい。